



兵庫県 尼崎市消防局
消防局長 吉田 寛

歴史・文化・産業のまち あまがさき

兵庫県の東南端に位置する尼崎市は大阪府に隣接しており、大阪湾に面した土地柄から古くは、大和、難波、京といった政治・経済の中心地と西国・瀬戸内を結ぶ海陸交通の要地として栄えたまちです。また、猪名川、武庫川などの豊かな水源を生かした農耕も盛んに行われ、国の史跡に指定されている田能遺跡は弥生時代の面影を今に伝えています。



近世には尼崎城を中心に城下町として発展し、城跡付近には今でも11か寺が残っており、都会の中の静寂を醸しています。その後、阪神工業地帯の中核都市として急速に都市化への道を歩んできました。そして、平成13年4月1日には特例市に移行し、さらに平成21年4月の中核市移行を目指し「尼崎市中核市推進本部」を設置したところです。

現在、当市では「曾根崎心中」、「冥途の飛脚」で有名な江戸時代の劇作家・近松門左衛門とゆかりのある広済寺を中心に、「近松のまち」としてのまちづくりを推進しており、オペラの殿堂として全国的に知られる「アルカイックホール」とともに文化を創造するまちを形成することで、歴史、文化、産業などさまざまな顔を持ったまちを築いています。

安全・安心都市 あまがさき

当市の面積は49.8k㎡、人口46万1,032人で消防体制は、1局4署3分署3出張所、421人の職員で組織され、6地区58分団927人の消防団員とともに市民の安心と安全を守っています。また、災害対策拠点として防災



尼崎市防災センター(南部)

センターを南部と北部の2か所に配置しており、それぞれに展示ホールを設け、市民の防災教育を行うとともに、救援物資を備蓄し、飲料水兼用の耐震性貯水槽を備えるなど、有事の際には迅速に対応できる体制を整えています。

当消防局の取組として、神戸大学、産業技術短期大学の教授など6人を防災専門委員として委嘱し、都市災害、電気火災、構造力学、危険物災害などの分野において日常的に指導、助言を受ける制度を取り入れています。

一方、救急においては、関西労災病院救急部の協力を得て、救急指導医による教育訓練として、症例検討や講義を中心とした「教育講義」、訓練を中心とした「巡回研修」を毎月4回実施し、救急隊員の知識・技術の向上に努めるとともに、新たな資機材の導入に関する指導、助言を受けています。



救急技術指導会

過去の災害を振り返りますと、平成2年3月18日に発生した長崎屋尼崎店の火災は、事業所における防火対策と初期対応のあり方について全国に警鐘を鳴らしました。また、平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、自主防災組織や地域コミュニティの重要性が再認識され、その結果、平成17年4月25日に発生したJR西日本福知山線列車事故では、市民や地域企業の積極的な救援や医療機関との連携によるCSM(がれきの下の医療)が行われるなど、地域防災力が機能しました。この事例は、国内のみならずIAFC(国際消防長協会)の依頼により、アメリカ合衆国コロラド州デンバー市にて開催された「FRI2005」へ当局の職員を派遣し、情報発信を行いました。

今後は各種災害の教訓を風化させることなく、研鑽努力を重ね、変革の時代に立ち向かうとともに、火災による「死者ゼロ」を目指し、「安全・安心都市あまがさき」を築くために、「市民にとって強固な消防」、「市民にとってやさしく、誠実な消防」、「市民にとって安全と安心を与える消防」の3つの重点目標を掲げ、全職員が一丸となって全力で取り組んでまいります。